

富士

ふれあいの村だより

第 27 号

令和5年3月

みんなの「力・笑顔・希望」を世界に発信！！

山梨県立富士ふれあいセンター 所 長 酒 井 明 美

令和4年度も新型コロナウイルスへの対応に気が抜けない生活が続きました。

特に施設や事業所では、利用者さんの健康を守るため、より一層の対策を講じるなど、大変苦心されたことと思います。

当センターでは、コロナ禍でも安心して取り組める障害児(者)の活動紹介や交流方法を考え、多くの皆様の御協力をいただき事業を進めてまいりました。

皆様への感謝の気持ちを込めて御報告させていただきます。

● 動画制作への取り組み ●

今回の動画制作は、コロナ禍での行動制限が続く中で、障害児(者)どうしの交流や身体を動かす機会が少なくなっている状況を改善するため、一つの歌を手話や踊りで表現する機会を提供し、余暇活動に役立ててもらうとともに、その様子を撮影した動画を発信し、障害児(者)の活動や交流、応援の輪を広げることを目的としています。

● 動画制作のスタートは、歌づくりから・・・

都留市出身(ふじざくら支援学校卒業)の小林浩太郎さん(享年23歳)が作詩した「目にうつるものだけがほんとはないよ」(障害のある人がつづる想いを、メロディーにのせてみんなで歌う「わたぼうし音楽祭」で文部科学大臣賞を受賞)を選曲し、障害者支援施設もえぎ寮の篠原寮長さんに編曲をしていただき、歌と演奏は、篠原寮長さんをリーダーとする福祉関係の仕事をしている音楽仲間とで結成されたバンドの皆さんに担当していただきました。

● 歌づくりの次は、手話や踊りづくり・・・

手話指導は、富士吉田市聴覚障害者協会と山梨県立聴覚障害者情報センターに、踊りは障害者支援施設などで指導をしている浜田先生に担当していただき、振り付けの練習用動画が完成しました。

練習が始まると、施設から積極的な楽器演奏の出演希望も寄せられ、動画で紹介できる障害児(者)の活動が広がることに期待が膨らみました。

● 練習の成果を発表する収録から公開へ・・・

収録では、カメラを前に凍とした表情や、達成感から生まれた笑顔を目のあたりにし、感動の連続でした!

動画のメインタイトルは、出演者に募集した中から、ふじざくら支援学校高等部3年勝俣寿人さんの作品「うまれてきたいいなかま」とし、総勢255名が出演する動画を公開しました。

また、障害児(者)が制作した絵画や工芸作品などを紹介する動画も公開しておりますので、あわせて御視聴いただき、2つの動画から、一緒に歌い踊る楽しさや、作品の素晴らしさを感じていただければ幸いです。

● 県障害者文化展への取り組み ●

当センター主催の文化教養講座で制作した作品を多くの方に鑑賞していただくことを目的に、県障害者文化展への出品作品を共同で制作する講座を開催しました。

参加者どうしが交流を深めながら、それぞれの感性で作品の魅力を表現する工夫を凝らし、手際よく作品を仕上げている様子に感銘しました。

出品作品は、富士急ターミナルビルQ-STA及び県立図書館に展示され、「奨励賞」を受賞しました。

当センターでは、御報告した事業の他に、富士・東部地域の障害児(者)や御家族、福祉施設等の職員などを対象とした「障害福祉相談」や「ことばの発達相談」、「各種講座・研修」などを行っています。

また、一般の団体やグループなども御利用いただける研修室や実習室なども備えていますので、どうぞ、お気軽に御相談、御活用ください。

これからも、地域から信頼され、安心して御利用いただけるセンター運営に努めてまいりますので、引き続き御支援、御協力をお願い申し上げます。

(福)山梨県社会福祉事業団障害者支援施設

はまなし寮

TEL (0555) 72-5322

FAX (0555) 72-5325

E-mail : hamanashi@yfj.or.jp

http://www.yfj.or.jp/hamanashi/

寮長 田口芳樹



平成8年に開所したはまなし寮は、この4月で27年の歴史を刻みます(写真は初期の入所者さんの作品)。当時

はふれあいセンターと一体となった県立の身体障害者療護施設でしたが、平成17年に、県の出資法人である「社会福祉法人山梨県社会福祉事業団」に移管され、民営化されました。その間、法律も障害者自立支援法から障害者総合支援法に変わり、平成24年には「障害者支援施設 はまなし寮」として名称変更しています。27年の間、多くの利用者さんの人生の一端を支え、共に歩んできたことは、現在を支える私たち職員にも多くの糧となっています。コロナウイルスのまん延や社会情勢の変化などありますが、「大変なときがあったよね」と笑って話せる時代も来ることを思い、利用者さんとの楽しい日々を創っていくはまなし寮でありたいと思っています。

■近年のはまなし寮事情

身体障害者療護施設としてスタートしたはまなし寮は、車椅子の方を中心にご利用いただいています。県内には、身体障害に特化した施設は少なく、最近では知的障害者施設で車椅子対応となられた方の入所希望も増えてきています。入所は特別な事情のない限り障害程度区分3～6の方に限定

される事もあり、利用者さんの障害は平均して重度化しています。さらに長期ご利用の方の高齢化、知的・精神障害の合併の方や医療ケアを伴う方なども多くなり、全体の支援量が増えてきています。国家資格である介護福祉士や看護師の配置、さらに介護士の医療行為である喀痰吸引の資格取得なども必要とされています。しかし、この数年は人材不足により、職員の定数が確保できない状況が続き、これは福祉業界全体の課題として、大きくなっています。

■新型コロナウイルスとの闘い

この原稿を書いている1月中旬ですが、当施設において新型コロナウイルスのクラスターが発生してしまいました。施設として考えられる万全の感染対策を実施し、利用者さんにも常日頃から対策をお願いしていましたが、それを上回る感染力を持ったコロナウイルス。世間では「マスクはいらぬ」、「もう感染は落ち着いた」などの発言も散見されますが、はまなし寮のように基礎疾患のある方や重度の療養が必要な方をお預かりしている施設では、脅威は続いています。今回8割近い方が感染し、入院された方も数名いた状況ですが、富士東部保健所や山梨県、山梨赤十字病院、ふれあいセンターからの援助もあり、早い時期の施設内ゾーニングや症状悪化の方への医療対応ができたことは幸いでした。現在は終息に向けた次の段階への対応を検討しているところです。感染症に対する施設構造上の欠点の対策や職員の動線の見直し、感染予防品の配置や備蓄、感染廃棄物の処理、救急要請時の医療連携など、今回の経験を生かして感染症に強い施設を構築していきたいと思っています。

トピックス

はまなし寮

■ナースコールが新しくなります ～ICT化による生活向上～

はまなし寮は療護施設であったこともあり、設立当初よりナースコールを整備しています。しかし時を経て、夜間でもブザーが寮内に鳴り響く設備(写真)は、利用者さんの穏やかな生活に少なからず影響していると思っていました。この度、県の補助金を受けられ、インカム(マイクとイヤホンの送受信機)のナースコールに変更工事を行う事となりました。音がしなくなり静かな環境となる事はもちろんですが、職員同士の連携や職務動線の効率化などにも期待できます。利用者さんと会話できる時間を、少しでも長くとれるよう工夫していきたいと思っています。



ふじざくら支援学校

TEL (0555) 72-5161

FAX (0555) 72-5164

E-mail : hujizkr-yg@pref.yamanashi.lg.jp

「歩み」

校長 手塚 雅 仁

富士ふれあいの村に山梨県立ふじざくら支援学校が開校して27年目となりました。開校以来、地域の皆様に支えられ、富士北麓地域にある唯一の特別支援学校として、知的障害や肢体不自由のある児童生徒の自立と社会参加をめざした教育活動に取り組んで参りました。

私は、ふじざくら支援学校が開校する前、今から約30年以上前になりますが、大月市のやまびこ養護学校（まだ学校名が支援学校にはなっていませんでした）に勤務していました。私が担任をしていた学級には、富士吉田市や富士河口湖町から通学している子供達がありました。毎朝7時にはやまびこ養護学校のスクールバスに乗り、片道1時間半のバス通学をしていました。また、通学が難しい場合には寄宿舎を利用している児童生徒も多くいました。当時のやまびこ養護学校は、知的障害のお子さんを通学対象としていましたので、肢体不自由のあるお子さんや、重度重複障害のお子さんは、家から離れて甲府養護学校やあけぼの養護学校で学ぶか、在宅での生活を希望する場合には、やまびこ養護学校の訪問教育を受けるのかを選択するという状況でした。私も訪問教育を担当していた時には、大月の学校から車を走らせ、西桂町、忍野村、富士吉田市、富士河口湖町の子供

達の自宅を訪問させていただきました。週3回、自宅に来る教員を迎え入れ、学習する環境を整えていただいた御家族の皆様は御苦労をかけたのではないかと思っています。また、当時の富士北麓地域には医療や福祉サービスを提供する施設も少ない状況でした。

このような教育や医療・福祉の環境をなんとか改善したいとの親御さん達の願いは、次第に大きな声となり、平成8年に富士ふれあいの村が整備され、ふじざくら養護学校が開校しました。通学時間は大幅に短縮され、肢体不自由や重度重複障害のお子さんも、自宅から毎日学校に通えるようになりました。医療ではリハビリが地域の医療機関で受けられるようになりました。福祉サービスも充実し、卒業生の働く場、生活の場が地域に広がりました。また、在校児童生徒が日々利用できる福祉施設も増え、下校時には放課後等デイサービスを利用する児童生徒のために、毎日多くの事業所からお迎えに来ていただいています。富士北麓地域はこの27年間の「歩み」の中で、地域で育み、地域で支え、地域で生きる環境が整ってきたことを改めて実感しています。

27年間、育み、支えて頂いた地域の方々への感謝の気持ちを忘れずに、特別支援教育の専門機関として一層の充実を図り、関係機関の皆様との連携を大切にしながら、ふじざくら支援学校が地域の特別支援教育の拠点として貢献できますよう努力して参りたいと思います。

トピックス ふじざくら支援学校

風船飛ばし

2学期のはじめにPTA主催「風船飛ばし」が行われました。役員の皆さんが、200個の風船に児童生徒が書いたメッセージを付け、準備してくださいました。「5、4、3、2、1、飛ばしましょう！」の合図で児童生徒が一斉に手を離すと、風船が一

気に空高く飛んでいく様子に、大きな拍手や歓声が湧き上がりました。翌日より県内外から「風船を受け取って嬉しかった」等と連絡もいただき、児童生徒にとって、楽しく思い出に残る活動となりました。



富士・東部小児リハビリテーション診療所の関わり

富士・東部小児リハビリテーション診療所
小児科 医師 糸山 綾

平成27年4月に開設された当診療所も、地域の皆様に支えられ今年で8年目を迎えます。当診療所では、富士・東部地域における障害のある小児、発達遅れ・偏りのある小児に対する相談やリハビリテーション・療育を目的に、毎週水曜・木曜日に診療を行っています。現在は小児科医師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理士・看護師・事務員の各1名、合計7名が働いており、運動や認知・言語発達に関わる問題に対する医学的評価およびリハビリテーションを実施してこどもたちの発達を促しています。

小児科では、医学的評価や診断、リハビリや薬物療法などの治療を検討することが主な業務となります。理学療法では歩行の獲得を主な課題としつつ、個々に合わせた運動機能の維持・向上を目指し、補装具や車椅子作成にも関わります。作業療法では、身体や道具の使い方を、遊びを中心とした作業活動を通じて促します。言語療法では言語コミュニケーション行動を評価し、言語理解、表出、発音、言葉の流暢性など様々な側面に対して訓練および援助をします。心理療法では、周囲との関係性や環境も含めて心理発達の評価を行い、個々の発達に合わせた課題を一緒に取り組みながら心の安定や発達を促します。

また、各部門で本人へのアプローチのみでなく、保護者や園・学校の先生方が悩んでいる生活上の問題について一緒に考え、専門的なアドバイスを行っております。リハビリの目標はみんなと同じようになることではなく、こども本人がそれぞれ自信をもって心豊かに生活できることです。興味を感じたり挑戦する気持ちを応援していきたいと思えます。

富士東部圏域の障害者相談支援の展望

山梨県相談支援体制整備事業
富士東部圏域マネージャー 小松 繁

現在、障害児者福祉サービスを利用する際、(平成24年から) サービス等利用計画の作成が位置付けられました。精神科病院、入所施設等から、グループホームや単身生活などご本人が希望する場合、地域移行・地域定着支援なども位置付けられています。

一方、地域の相談支援の中核となる基幹相談支援センターの機能強化や、主任相談支援専門員の養成も始まり、困難なケース、相談支援専門員等の人材育成、多機関連携等分野横断型の取り組みや、地域づくりの中核としても期待されています。

他方で、支援内容に報酬が伴わないこともあり、様々な加算等を取得することで、地域相談支援の機能強化に結び付けるシステムも構築してきました。

そして、様々な支援課題から、当事者・当事者家族・行政・事業所等官民協働で協議する、地域自立支援協議会も存在しています。

また、それらは、市町村障害(児)福祉計画、都道府県障害(児)福祉計画に反映する形ともなっています。

つまり、制度や体制上、地域や圏域での相談支援での仕組み・場やサイクルは創設され、稼働・運用されています。

しかし、実際は、地域資源も含め課題が様々あり、今後地域の人口減少等により効率的な運用や、事業所運営へ舵を切らなくてはならない時代になるかとも思われます。

だからこそ、上記の既存の仕組み・場等の見直し、更なる充実や有効活用と相談支援が、その時代や時々目の前の方々に向き合い、伴走し、代弁し、不利益に対して、根拠を持って進言し、連携して課題解決に向き合う姿勢が、より大切になってくるとも思われるのです。

富士ふれあいセンター地域交流事業「動画制作」の紹介

地域の皆さんと力を合わせて動画作りに取り組み、素晴らしい音楽動画と作品動画が完成しました。踊りを指導していただいた浜田先生による振り付け練習用もご覧ください。

タイトル部門で山梨県立ふじざくら支援学校 高等部3年 勝俣寿人（かつまたひさと）さんの作品「うまれてきた いいなかま」が優秀賞を受賞されました。



授賞式 令和5年1月25日 富士ふれあいセンター研修室にて

～タイトルの由来についてインタビューしてみました～

Q. どうしてこのタイトルにしたのですか？

A. なかまは「子どもやお年寄り・先輩・地域の人」みんなのことです。

ぼくは、生まれてきたいいなかまを大切に、みんなで仲良くしながら、地域や町が平和になってほしいです。



左 富士ふれあいセンター 酒井所長 右 ふじざくら支援学校 手塚校長
中 ふじざくら支援学校 勝俣寿人さん

～「動画制作」に参加した方々から

たくさんのご感想をいただきました。～

- コロナ禍で自粛生活が続いていて、大きなイベントの機会がなかったので、目標をもって踊りの練習に取り組むことができて良かったです。(施設)

- 体を動かしたり、皆で何かに取り組んだりする機会が少なくなっていたので、利用者さんが楽しんで生き生きと取り組むことができて良かったです。(事業所)
- 手足の動かない利用者さんが時間をかけて制作した作品の写真です。今回の「動画制作」に出品し、参加できたことがご本人の励みになったと思います。(医療)
- 動画を通して、地域の事業所や施設、学校等の様子が知れて良かったです。(事業所)
- 手話を通じて同じ気持ちを表現するというのが楽しかったです。手話を覚えられたので、今後も活用していきたいです。(行政)
- 通常の事業所内では味わえない有意義な時間をみんなと一緒に共有することができました。動画撮影などは断る方が多いと思いましたが、趣旨がきちんと理解されていることと自分たちの事を周りがしっかりと理解してくれているという安心感があれば、素晴らしい自己表現が実現できることを証明した気がします。(事業所)
- 生徒たちの作品や一生懸命に取り組む姿を地域の多くの方々を知っていただく良い機会となりました。ほかの学校や施設の方々の作品もすばらしく、作品から放たれるパワーに圧倒されるとともに、素敵な笑顔や真剣な姿に勇気づけられました。(学校)

音楽編



作品編



振り付け練習用



BURNING SKY & THE LUMINOUS SOUL BAND

バンド名の由来（浩太朗さんの最期のメッセージである「真っ赤に染まる空、光り輝く僕の魂」の英訳をバンド名としました。）

県障害者文化展出品作品の紹介

ふれあいの村3施設で出品した作品を紹介します。



ふじざくら支援学校
小学部Aグループ
「みんなの「わ」」
奨励賞

花紙を水に溶かして紙すきをしました。みんなの丸が重なってできた「輪」は、友達となかよしな所や平和な世界を表現しました。



はまなし寮 「富士山とラベンダー」

めて立体感を出し、富士山は雲がダイナミックに動いていく様子を表現しました。

みなさんに「コロナが無くなったらどこ行きたい?」と聞くと、声をそろえて「富士山とラベンダーが見たい!」。みなさんが思い描く楽しい外出の想いが込められた作品。ラベンダーは一つ一つ丁寧に丸



ふじざくら支援学校
高等部2年
堀内 空さん
「紅葉と富士山」
奨励賞

秋になり富士山周辺が紅葉する様子をアクリル絵の具を塗り重ねて暖かく表現しました。



富士ふれあいセンター
富士ふれあいフレンドチーム「富士山」 奨励賞

「富士ふれあいフレンドチーム」の共同作品として色や形が様々なステンドグラスとフラワーアレンジメントで、世界に誇る日本一の「富士山」を彩りました。チーム全員が楽しい時間を過ごし貴重な体験をしました。

「富士ふれあいの村」へのアクセス

交通案内

- 車 : 河口湖インターより約2分
- タクシー : 河口湖駅より約5分
- バス : 河口湖駅よりレトロバスで「山梨赤十字病院」下車徒歩5分



編集後記

富士ふれあいの村だよりは今回で第27号の発行となりました。お忙しい中、寄稿いただいた皆様には感謝申し上げます。障害福祉を取り巻く社会情勢が目まぐるしく変化する中、令和5年度は障害(児)福祉計画を見直す時期でもあります。今後も地域共生社会の進展に向けた取り組みを考えていきたいと思っています。

編集・発行

山梨県立富士ふれあいセンター

〒401-0301
山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-1
TEL (0555) 72-5533
FAX (0555) 72-5539
E-mail : fuj-hureai@pref.yamanashi.lg.jp